



新聞画會 第廿八号

明治八年三月六日  
 越前と近江の境なる  
 初の本峠の林麓にて  
 二人の死骸あり是ハ  
 雪類れりまて死せし  
 其人ハ越中の國  
 高岡阪下町の  
 富家村田

サ藤左雨文婦まて  
 大坂よりの歸路

九化略記附傳

かゝる災ひは逢ひ  
 ざる此雪なれども  
 山の雪春の陽  
 氣にて山の肌と  
 雪と離れ切れる  
 時をなれば  
 ハ忽ち落るこ  
 其雪大盤石  
 の如くまて  
 する者必ず  
 助かるを得ずと  
 北陸旅行の人ハ  
 用心あるべし

東京日々 抜萃  
 九百七十三号

不審  
 九百七十三号

